

[文献検討]

## 高齢者の就労に関する国内文献の検討 —看護職者が介護予防を就労につなぐために—

山口初代<sup>1)</sup>, 大湾明美<sup>1)</sup>, 田場由紀<sup>1)</sup>, 砂川ゆかり<sup>1)</sup>,

1) 沖縄県立看護大学

キーワード：高齢者、就労、介護予防、看護職者

Key words : the elderly, working, care prevention, nursing profession

### I. はじめに

Quality of life (QOL) は、生命の質・生活の質・人生の質と訳され、労働・仕事はQOLを構成する指標として位置づけられている(上田, 1983)。また、国際生活機能分類は、人が生きることの全体像の共通言語として、2001年WHOの総会で採択され、生活機能を心身機能・構造、活動、参加のレベルで捉えている。特に、活動と参加を重視することで、本来の全人間的復権につながるとされ(大川, 2004)、その領域には仕事と雇用が位置づけられている(上田, 2005)。さらに、豊かに老いるサクセスフルエイジングの実現のためには、他者との交流の維持と生産的活動の維持という人生への積極的関与が提案されている(Rowe, 1998)。このように、働くことは人が豊かに生きるための条件として位置づけられている。

人が働くことは、古代ギリシャの哲人によって最初に論じられ、哲学、倫理学、宗教学、人類学等の人文科学で取り上げられ、資本主義経済が台頭し貨幣経済が主流となった近代、経済学、経営学の社会科学で論じられてきた(橘木, 2009)。人生100年時代を迎えた働き方改革として、意欲と能力がある限り年齢にかかわらず働き続けることができる社会の実現が目指されている。働くことは、人類が誕生し250万年、生存を維持するために営まれてきた。人類が発展を遂げた歴史を紐解いたHarari(2016)は虚構を信じる力による集団形成に鍵があると述べている。言語の出現により多人数と協力することを可能にし、狩猟採集から穀物を栽培し家畜を育てることを覚えた。そして、最も効率的な相互信頼の制度である貨幣により資本主義が台頭し、さらに、近代科学が成立し産業を推進した。このように、人は、幸福を求め、働き方を改革し、文明を築いてきた。

労働は、laborの翻訳語とされ、labare(「重荷でよろめく」と同じ語源であり、苦痛と努力を意味しており、生みの苦しみを表すのにも用いられ、労働は奴隷のすることとされた(橘木, 2009)。日本には、明治以後に「労働」に翻訳され「労働」に変化した。が、「勞」(「かがり火が燃焼するように力を燃焼させて疲れる」と「動」(「人

が重い袋を動かす」)が、誰によって合成され命名されたか定かでないといわれている(菊野, 2003)。労働の真の意味をやまと言葉に求めた山川(1978)は、「はたらく」、「いそむ」などのやまと言葉と吟味し、積極的、自発的、自足的な要素をもった活動と解釈した。三戸(1987)は、「はたらく」ことの語源は「はたをらくにする」(「まわりの人(家族など)を楽にする」とし、家を拠点にし、家族と共に働いてきた日本人の特徴を述べた。哲学者であるArendt(1994)の分析に基づき、労働概念を整理した菊野(2003)は、現金収入を得るための賃労働を狭義の労働、生産性に関わらない活動を広義の労働、さらに思考や感情をも最広義の労働と位置づけ、資本主義経済では狭義の労働化していることを述べている。このように、日本において労働は、強制されることなく、自分の意志で進んで他者の役に立つことをするという意味をもっており、時代の影響を受けながら、働くことの価値や定義が変化している。

労働の類似用語には、「就労」、「職業」、「仕事」等がある。就労は、社会福祉領域で用いられ(大曾根ら, 2006)、「自立」の概念が目標として設定されている(奥貫, 2016)。また、労働法の枠外で提供されるいわゆる社会的弱者を対象とした働き方とされているが(奥貫, 2016)、混在して用いられており、法律上も明確に定義されていないことが指摘されている(大曾根ら, 2006)。このように、労働と就労の区別がつきにくくなっている。

ところで、厚生労働省老健局長の私的研究会として設置された高齢者介護研究会(2003)は、高齢者の介護予防を進める視点を示した。研究会は、「社会参加、社会貢献、就労、生きがいつくり、健康づくりなどの活動は、介護予防につながるものである。介護予防の推進という観点からは、介護予防を広い概念として捉え、こうした様々な活動を社会全体の取組として進めていくことが必要である」としている。しかし、著者ら(2018)が、看護職者の介護予防活動の国内文献を検討した結果、看護職者が行う介護予防活動は健康づくりと生きがいつくりが主であり、就労についての研究が見いだせなかった。人生100年時代において就労する期間の拡大が求められ

ている今日、看護職者が介護予防に就労を取り入れ、看護の実践と研究に活かしていくことは重要である。

そこで、本稿では、看護職者の介護予防による就労を支援することの可能性を導くために、就労の歴史的な背景、定義、類似概念を概観し、高齢者の就労に関する国内文献の検討から、高齢者の就労のニーズ・経験・成果に焦点をあて実態を把握することを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 就労の歴史的な背景、定義、類似概念の概観

就労の歴史的な背景は、政府刊行物である厚生労働白書（2017）、国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会，2018）、高齢・障害・求職者雇用支援機構発行の啓発誌「エルダー」を用いた。また、就労の定義および類似概念は、日本社会保障法学、リハビリテーション学、社会福祉学、社会学のそれぞれの分野の研究者による論述から概観した。

### 2. 高齢者の就労に関する国内文献の検討

#### 1) 分析対象文献の選定

文献の抽出は、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できる CiNii Articles を用いた。介護予防の用語が使われ始めた 2000 年以降の文献とし、キーワードを「就労」とし、検索後 8,250 件で、タイトルに「就

労」の文字が記載されており、「本文あり」の文献に絞り 2,315 件が抽出された。タイトルに「高齢」と「就労」の文字が記載されている 60 件を抽出した。対象や方法および結果について詳細に記載されている必要があるため、分析対象文献は、学会抄録、文献レビュー、を除く質的研究とし、3 件あった。また、ハンドサーチで、上記選定基準を満たした 4 件の文献を加え、重複 1 件を除き総計 6 件をとった。なお、投稿論文は一定の制限のなかで知見が示されており、詳細な記述が得られると思われる報告書も含めた。

#### 2) データの収集と分析

高齢者の就労に関する文献 6 件を精読し、発行年の古いものから降順に ID 番号をつけ、著者名および発行年、文献名と掲載誌情報、研究目的について一覧にした（表 1）。なお、同一著者の同一の結果を用いている 1 文献を除き、分析対象文献 5 文献とした。次に、研究結果から、①「高齢者は就労に対してどのようなニーズがあるのだろうか?」、②「高齢者は就労を通してどのような経験をしているのだろうか?」、③「高齢者は就労を通してどのようなことを得ているのだろうか?」という分析の視点で記述を取り出し、コード化した。内容の類似するコードを集めサブカテゴリー化、カテゴリー化した。文中では、「」は記述内容、〈 〉はコード、《 》はサブカテゴリー、【 】はカテゴリーで表示した。

表1 分析対象文献

ID	著者名	発行年	文献名	研究目的	対象	方法
1	福島 さやか	2006	高齢者の就労ニーズ分析—高齢期における就労形態の探求(女性のキャリア、高齢者のキャリア)	定年後の労働者が働くことに満足し、高いモチベーションで働き続けられる就労形態を探求するため、高齢者の就労事例研究とそこで生き生き働く高齢者へのインタビュー調査から高齢者の就労ニーズ分析を行うこと	2000～2005年中に新聞・ビジネス関連雑誌などのメディア等で「生き生きと働く高齢者」事例として取り上げられた企業・NPO法人、企業組合などで働く23名	「就労動機＝なぜ働くのか」「働き方に対する志向＝どのよう働きたいか」「働くことに何を求めるか＝価値観」を個人インタビューし、グラウンデッドセオリー法により分析
2	福島 さやか	2007	高齢者の就労に対する意欲分析(特集 仕事の中の幸福)	高齢になって働き続けている高齢者個人の就労に対する意欲や意識＝就労ニーズを分析し、これからの高齢者就労のあり方を探ること	2000～2005年間に新聞・ビジネス関連雑誌などのメディア等で「生き生きと働く高齢者」事例として取り上げられた企業・NPO法人、企業組合などで働く24名	「就労動機＝なぜ働くのか」「働き方に対する志向＝どのよう働きたいか」「働くことに何を求めるか＝価値観」を個人インタビューし、グラウンデッドセオリー法により分析
3	後山 恵理子	2007	高齢者の就労目的と満足度：予備的事例調査から	高齢者の就労目的、実態・満足度等を調査し、若年就労者との違いやソーシャルワーク支援の必要性について明確にすること	65歳～70歳 11名	基礎的事項(性別、年齢、趣味、健康、年金等)、現職状況(職務内容、勤務日数、勤務時間、通勤時間等)、職業満足度・就労観(満足している点、満足していない点、仕事をしている理由、これまでの仕事に対する考え、これまでの仕事経緯)について、半構造化面接法によるインタビュー調査
4	辻 哲夫	2013	戦略的創造推進事業(社会技術研究開発) コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン研究開発プロジェクト「セカンドライフの就労モデル開発研究」	人生90年時代のセカンドライフのあり方(個人の生き方の問題)と、超高齢社会における高齢者の活躍場所の創出(地域の高齢化に伴う問題を、「生きがい就労」という場の創造を通じて同時に解決をはかる実証研究)をすること。これからのセカンドライフの生き方として「生きがい、就労」に動じない生活が如何に有用であるかを明らかにしていくことが本研究の達成目標であり、本研究で取組んだことは、①生きがい、就労個人等に対する効果的・継続的に検証すること、②そして、これらの事業創成のプロセスをマニュアル化すること	千葉県柏市における生きがい、就労事業に参加した高齢者174名	参加型アクションリサーチ
5	山口 初代、大瀧 明美、佐久川 政吉ら	2014	男性高齢者の「生きがい就労」の実態とニーズ：A島の当事者の語りから	男性高齢者の新たな介護予防の支援方法を見出すために、当事者の語りから生きがい、就労の実態とニーズを把握すること	千葉県A島で民泊受入をしている65歳以上の男性高齢者4名	研究協力者の概要、生きがい、就労の実態、生きがい、就労のニーズについて半構造化した面接質問紙調査を行い、体系的に整理
6	大浦 明美	2015	独立型社会福祉士における高齢期の就労継続要因	地域で成年後見人を受任している独立型社会福祉士の職務におけるネットワーク形成のプロセスと社会福祉援助技術等についてインタビュー調査をし、その分析から生涯現役をめざす就労継続要因について検証すること	都道府県社会福祉士会の会員で、後見業務を行っている高齢者10名	個別の半構造化面接によるインタビューを行い、M-GTA法で分析

※ID1とID2は、同一著者であり、同一の結果を用いていることから、分析対象文献はID2を除く5文献である

### Ⅲ．結果

#### 1. 就労の歴史的な背景

就労に関するわが国の政策は、第二次世界大戦後の社会的・経済的混乱のなか制定された「職業安定法」(1947年)に遡り、求職者に対して職業指導、職業紹介、職業訓練などが提供された。朝鮮戦争の勃発(1950年)で、瀕死の状態であった日本経済は一気に好転したものの、戦争被害を受けた身体障害者の就職が依然としてきわめて厳しい状況にあった。そして、国際労働機関(ILO)総会で採択された「障害者の職業リハビリテーションに関する勧告」(1955年)が国際的に承認されてきたことも受け、事業主に一定以上の身体障害者を雇用することを義務付ける身体障害者雇用促進法(1960年)が制定された。1970年代半ば以降、労働基準法が適用される働き方である雇用と区別し、使い分けるために、提唱者は不詳であるが福祉的就労という用語が用いられるようになった。

ところで、高齢者の就労について、大河内(1971)は、就労を通じて生きがいを得る高齢者の生きがい就労を提唱し、シルバー人材センターが1975年設立されていた。

#### 2. 就労の定義と類似概念

日本国憲法第27条では、労働の意思と能力のあるすべての者が国家に対して労働の機会を求める権利を有している(労働権)。就労の定義について(表2)、松為

(1998)は、障害のある人が働く形態とし、日本社会保障法学会(2001)は、労働契約に基づく雇用とは区別される労働形態とした。日本職業リハビリテーション学会職リハ用語研究検討委員会(2002)は収入を伴う生産的活動に従事すること、山村(2011)は何らかの経済活動に基づく作業・業務活動などに従事することとし、その中に福祉的就労を位置づけた。鈴木(2015)は、社会活動に就くこととした。このように、就労の定義は社会的弱者を含む、すべての者が、生産的活動に従事することにより、その対償として他者との相互作用が生まれることである。対償は、現金収入、衣食住に必要なモノ、糧などとして位置づけたものがあつた。

就労の類似概念には、「労働」、「仕事」、「職業」、「就職」、「就業」、「雇用」、があつた(表3)。「労働」は、働くことと同義語である目的をもった生産的活動であり、労働を人間の行為全般としてみたものを「仕事」、労働を生業としてみたものを「職業」と規定される。就労の下位概念として、仕事に就くこと(得ること)の「就職」、就労する行為・すなわち業務に実際に携わることやその活動の「就業」がある。そして、社会的弱者を対象とした働き方の就労の対概念である「雇用」は、労働基準法が適用される働き方である。このように、就労は、労働や仕事に含まれ、職業、就職、就業を含む概念であり、雇用の対概念であつた。

表2 就労の定義

提唱者	定義
松為(1998)	障害のある人が働く形態であり、賃金の助成や特別の保護的な職場環境の提供を受けなくて競争的な労働市場に参加している場合(雇用、在宅就労)と、それらを含む公共的な支援のもとに就業の機会が確保されている場合(福祉的就労)に区分することができ、この両者をさす。
日本社会保障法学会(2001)	労働契約に基づく雇用とは区別される労働形態であり、次の3つの種類が含まれる。(a)請負や委託などの民法上の契約に基づく就労(家内労働法の対象となる家内労働、労働基準法や被用者保険が原則として適用されない個人事業主)。(b)障害者や高齢者などを対象とする、法令上の根拠に基づく特別な就労形態(福祉諸法に基づく「授産施設」での福祉的就労、高年齢者雇用安定法に基づく「シルバー人材センター」での高年齢者の生きがい就労)。(c)労働者協同組合やワーカーズ・コーポラティブと呼ばれる新たな自立的組織を通じた就労である。
日本職業リハビリテーション学会職リハ用語研究検討委員会(2002)	収入を伴う生産的活動に従事することであり、大きく2つに分かれる。「一般就労」(competitive work、「一般雇用:competitive employment」も日本においては同義)は雇用契約を結び賃金の支払いを受ける形態であり、それに対して雇用契約を結ばず賃金の支払いを受けない(作業の結果としての収入の分配である工賃は受け取る)形態を「福祉的就労」という。さらに日本では制度的に採用されていないが「保護雇用」という概念がある。概念としては障害者に対してその障害特性に合わせた何らかの配慮を伴う就労形態をいう。
山村(2011)	「一般就労」・「福祉的就労」・「在宅就労」からなる概念で、何らかの経済活動に基づく作業・業務活動などに従事することであり、就労の下位概念として仕事に就くこと(得ること)を「就職」、就労における実務に携わる行為を「就業」とする。
鈴木(2015)	人たるに値する生活を営むために、社会的活動に就くこととし、一個人に留まらない概念である。自身の糧を他者に提供するたとえばボランティア活動、特に直接的な見返りを求めない一方的な「施し」である場合は、提供する活動そのものは就労ではない。しかしその「施し」を他のモノと交換して新たな糧を得るならば、他者にとってはそれらの行為を含めて就労になりうる。就労はこのように、他者の存在によっても成り立つ多面的な性格を有することから、主観的な概念であるとともに社会的な概念である。

表3 就労の類似概念

概念名	説明
労働	就労よりも広い概念を指すものと捉えられる傾向がある。働くこととほぼ同じ意味で用いられている。就労に比べると賃労働としての印象が弱く、目的をもった生産的活動ということが強調された概念となっており、このことは、近代になって「労働」のなかに家事労働などのシャドウ・ワークといわれる労働が含まれるようになったことによって、その概念が拡大されたこととも関連がある。
仕事	職業に比べ広範で多様な意味を含む言葉として、人間の行為全般をさすような一般性の高い言葉として用いている。
職業	就労や就業よりもさらに限定的、あるいは生計をたてるための仕事、生業のように賃労働の印象が強い。
就職	就労の下位概念として仕事に就くこと(得ること)である。
就業	就労における実務に携わる行為である。
雇用	就労の対概念として位置づけられている。対義語という意味ではなく、一つの事象を表す二つの言葉として不可分の組み合わせという意味である。労務者と使用者の間で交わされる労働契約あるいはその契約を交わすこと。

出典：山村リツ。(2011). MINERVA社会福祉叢書③ 精神障害者のための効果的的就労支援モデルと制度—モデルに基づく制度のあり方—, 23-29. ミネルヴァ書房を一部抜粋して作成

### 3. 高齢者の就労に関する国内文献の検討

#### 1) 高齢者の就労におけるニーズ

高齢者の就労におけるニーズは、【健康な限りライフスタイルとして稼ぎに出たい】、【就労で自分の居場所がほしい】、【働きたいときに無理なく楽しく働きたい】、【強みを活かして仲間と助け合いながら、役に立ちたい】、【お世話になった会社や地域に恩返しをしたい】の5カテゴリと16サブカテゴリがあがった(表4)。以下、カテゴリの例を説明する。

(1) 【働きたいときに無理なく楽しく働きたい】: 「数字をニンジンみたいにぶら下げられてやるのは、もう嫌だ。やりたくない。」ので、重い責任から解放されて働きたい

(ID1) の《これまでは生活していくために無理もしてきたが、これからは重い責任から解放されて働きたい》ニーズがあった。

(2) 【お世話になった会社や地域に恩返しをしたい】: 〈自己満足的な生き方より、仕事を通して社会や会社への貢献につながる歯車となれるような目的や負荷をもちながら働きたい〉(ID3) の《お世話になった会社や社会への恩返しとなる仕事がしたい》ニーズがあった。

このように、高齢者の就労におけるニーズは、高齢者本人のためだけでなく、仲間や会社や地域などの高齢者本人以外の他者のためのニーズも含まれていた。

表 4 高齢者の就労におけるニーズ

ID	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
3	定年退職後、年金だけで暮らせず、生活していくために収入がほしい	生活していくために年金にプラスする収入がほしい	健康な限りライフスタイルとして稼ぎ出したい
4	働くことで、僅かでも年金にプラスされる収入を得て、生活のゆとりをふやしたい		
3	定年退職まであと1年だったがリストラにあったため、フルタイムで働くことに関心がある	長年慣れ親しんだライフスタイルである就労の機会がほしい	
4	高齢男性は、「働きに出る」という最も長年慣れ親しんだライフスタイルである「就労」の場が地域にほしいという意見をもっている		
4	まだまだ身体が元気なうちは、活躍できるので働きつづけたい	生きていて健康な限り働くのは当然のことであり、これからも働き続けたい	就労で自分の居場所がほしい
1	「生きていて健康な限り働くのは当然」、「時間より早く来て、自分の持ち場を確認するのは当然」という価値観で与えられた職務に取り組んできたので、これからは何らかの形で働きつづけたい	定年退職後の有りすぎる時間をどうにかしたい	
3	定年退職後の念願であった「束縛されない生活」は、趣味もない私にとって時間が有りすぎることで、うつ状態となり、ろくなことを考えないので、どうにかしたい（時間をつぶしたい）	外出目的と自分の役割（居場所）がほしい	
3	経済的に余裕があっても、家に居てもすることが無い生活に耐えられず、家から出る機会がほしい		
4	高齢男性は、「働きに出る」という明確な外出目的と明確な自分の役割（居場所）を与えられることを希望している		働きたいときに無理なく楽しく働きたい
3	年金暮らしでの固定資産税や保険料の負担が妻ともめる原因になっており、遊ぶお金（ゴルフ・酒）を続ける資金は自ら稼ぎ、妻ともめることを避けたい	妻との軋轢を避けるために、外に働き出したい	
3	定年退職後、妻から「毎日家に居られると困る」とまるでゴミのように扱われ、図書館ばかり行っているわけにもいかないので、外出目的をつくりたい		
3	失業保険をもらって、家に居てもすることがなく、朝から晩まで妻とはいられないので、外出したい		
3	定年退職後は自宅でゆっくりしたいと考えていたが、妻にまるで生ゴミ扱いされ、妻は妻の世界があり、夫婦の考え方が違っていることに気がついたので、軋轢を避けるため外出したい		強みを活かして仲間と助け合いながら役に立ちたい
3	体力に合わせて、通勤は狭いほうがいい		
1	加齢による体力的な衰えや持病などのため、現役時代と同じ時間・日数・ペースで働くことは難しいので、長時間にならず、週3回ぐらいでシェアして働く形態がいい	老いや都合にあわせ、柔軟な勤務形態で（フレキシブル、ワークシェアリング、狭い通勤範囲）働きたい	
4	現役当初のように週5日フルタイムの働き方ではなく、できるだけフレキシブルな形で、短日、短時間の無理のない働き方を希望している		
1	時間の制約を受ける働き方を40年近くしてきたので、これからは都合にあわせ、もっと自由に（柔軟な勤務で）働きたい		
5	身体への負担を気遣いながら、民泊事業を継続したい		
5	子ども達との行動は楽しいが疲れるので、民泊を辞めることも検討したい		
3	今までは生活するための資金づくりだったし、「仲間に負けてたまるか、トップになりたい」と、少々の無理もしたが、これからは血圧が上がるような苦情対応の仕事は絶対にしたくないし、ストレスがない仕事をしたい	これまでは生活していくために無理もしてきたが、これからは重い責任から解放されて働きたい	
3	「今は、老眼だし、力仕事は無理だし、危険を伴う仕事は嫌だし、物を売ったり、人間関係でなんだかんだするのはもうたくさん」なので、私の心身機能に合った仕事に就きたい		
1	重い責任を負って働くだけの気が、今はないので、責任が軽い仕事で無理なく働きたい		
1	「数字をニンジンみたいにぶら下げられてやるのは、もう嫌だ。やりたくない。」ので、重い責任から解放されて働きたい		
1	重い責任を担わないことで、負担を感じずに、第二の人生は楽しくやっていきたい	第二の人生は、新たな役割は、命令されず、自律的に楽しく働きたい	
3	これまでは家族を養う義務やローン完済のために背負うものがあったり、会社への熱意、自分の存在する意義や昇格もあり、辛い仕事や責任が重い仕事も我慢して頑張ってきたが、そういう拘束がない今は責任が無い仕事に就きたい		
1	仕事は、命令されず、自分で採配でき、軌道修正をしながら進めていきたい		
1	仕事は、自分で考え、自分でしたいという目標や夢に向かって、工夫して自律的に進めていきたい		
1	楽しく働けることを条件に仕事に就きたい		
3	生活費の補足は、過去の仕事の経験を活かせる仕事（人にかかわること）でしたい	これまで培ってきた経験を活かして働きたい	
1	不慣れな仕事ではなく、自分の過去の経験を活かして、世の中に参加していきたい		
1	自分の今までの知識を仕事に活かしたい		
1	病気になるたとき、いそがしいときに顧客の要求に、自分だけで対応できるだろうかという恐怖から逃れて働きつづけるために、仲間でお互いの経験を共有し、成長し合う場としたい	働く仲間同士で互いに助け合い、共に成長し合う場にしたい	
1	働く仲間同士で互いに助け合い、絆を感じながら、無理をしないで働きたい		
1	働く仲間から自分が一方的に助けられるばかりではなく、相手を助けることで自分が仲間のために役立っていると実感したい		
1	「自分の人生を高めていくということを子供が見ている」と思うので、若い人たち（次世代）に何かを伝えることで自らの存在意義を確認したい	自分の働く背中を見ている若い人が育つように、これまで培ってきたことを継承したい	
1	「子供は親の背中を見て育つ」ので、若い世代（次世代）を導きたい		
1	高齢期に入り、これまでさまざまな社会環境のなかで働いてきたこと、成長したことに感謝し、残り人生に、それに報いたいと思うので、これまで培った自らのさまざまな人生経験や知識を、若い人たち（次世代）に継承し、役に立ちたい		
3	姉からの就職の依頼に応えたい	関係者からの就職の依頼に応えたい	
3	前職の友人からの「この仕事を私に頼みたい」という依頼に応えたい。		
1	誰かに助かった、さすがプロだねと言われることが自分の喜びであり、顧客のために役に立ちたい	顧客に喜ばれ、ありがとうと言われるたい	
1	みんなに喜ばれることが、私のエネルギーとして自分に返ってくるので、顧客にありがとうと言われるたい		
1	自分が今あるのは、会社や社会にお世話になったからであり、恩返ししたい	お世話になった会社や社会への恩返しとなる仕事をしたい	
3	自己満足的な生き方より、仕事を通して、社会や会社への貢献につながる歯車となれるような目的や負荷をもちながら働きたい		
1	最近病気にかかって歩けなりつつあるが、歩けるうちに世の中に恩返ししたい		
6	人との関わりや社会との接点を持ちながら、地域に貢献できる仕事があった		
5	これまで観光地でなかった島には観光マップがないことから、観光マップづくりは、行政も含めた島内外の関係者によるプロジェクトでつくる価値があることを提案するなど、地域の産業として組織的に就労に取り組みたい	地域の観光産業育成に取り組むたい	
5	修学旅行生のお土産は、地元の産業活性化につなげるようにシステム化してほしいなど、島の産業育成に組織的に取り組みたい		
5	民泊事業を継続するために、民泊先の食事のメニューの均一化や質の向上に努めたい		

## 2) 高齢者の就労における経験

高齢者の就労における経験は、【介護予防で老いに適応しながら無理なく働く】、【楽しみと活動を分かち合う】、【自然に親しみ共生する】、【これまで培ってきた経験を活かす】、【老いの強みを活かす】、【異なる価値を受け入れ適応する】、【地域の産業育成に貢献する】の7カテゴリと21サブカテゴリがあがった(表5)。以下、カテゴリの例を説明する。

(1)【これまで培ってきた経験を活かす】:〈就労シニアは、「まちの先生」の愛称のもと、読み聞かせ、折り紙、お手玉、

百人一首など伝承遊びの実践で活躍している〉(ID4)の《これまで培ってきた暮らしの経験を語り、再現し伝えている》経験があった。

(2)【地域の産業育成に貢献する】:〈民泊の子ども達が島の観光大使になれるよう、何でも話して聞かせ、島の産業育成に貢献している〉(ID5)の《観光産業に貢献できるよう、地域の良さを顧客(民泊する子ども達)にPRしている》経験があった。

このように、高齢者の就労における経験は、高齢者本人への影響と他者への影響があった。

表 5 高齢者の就労における経験

10	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
3		運動や認知症予防も兼ねて、仕事を活用する	介護予防で老いに適応しながら、無理なく働く
5		子ども達とおしゃべりは、認知症予防にもなると思うので、話すようにしている	
5		民泊での食事は子どもたちにも配慮なくセルフサービスでおかわりするように伝える、老夫婦の私達は子ども達の世話で疲れすぎないようにしている	
5		民泊で共同生活するときの部屋の配置は、自分達（高齢者）は夜間トイレによく起きるので、子ども達の睡眠の邪魔にならないようにしている	
5		民泊では食材の買物の量が倍増するので、忘れないようにメモをとるようにしている	
5		民泊では食材の買物の量が倍増し、荷物が持たなくなるので、売店に行く回数を増やしている	
6		高齢者である自分の老後も考えなければならず、年齢による仕事の限界も視野にいれて新規の仕事は引き受けるようにしている	
3		頭を使わなくてよい単純作業で、頑張らなくてよい、責任が重くない仕事でも、個人的には責任を課し取り組んでいる	
3		補助的生涯を得るため、年金との関係で週2~3日の非常勤的な勤務にとどめている	
3		年金との関係で、週3~4日の勤務にとどめている	
3		年金は先行き不安であり、働けるうちは働き、年金の給付を70歳に延長している	
3		妻との軌轍を避け遊ぶ資金が得られるよう、稼ぎは、妻に半分渡し、残り半分は妻に内緒で使うようにしている	
6		良き人生は、前期高齢者としての自分の生活と仕事と仕事の充実感のあることだと思っているので、ワークライフバランスに努めている	
3		タクシー運転手は、「一人で行動するからドライブははくなくてよい。車に乗ったら、誰の指図もされたくない、売り上げを持って返れ何も文句が出ない、休憩したいときに休める。」と自尊心を確保するようにしている	
5		民泊の時には、妻と子ども達の献立を相談し、家族で力を合わせ協力している	
5		民泊の時には、妻の身体状況を気遣いながら家事を分担し、家族で力を合わせ協力する	
3		体力的には衰えは感じるし、通勤時間が負担になっているが、職場が楽しいから頑張っている	
5		船で出かけるときは安全のために、毎回、若者の友人に乗船を依頼している	
6		自分ひとりで一生懸命仕事に取り組みだけでなく、仲間との横つながりが公式にも非公式にも活かせるように意識している	
4		「セカンドライフの新しい働き方を創造する」をテーマにした、就労セミナーをに参加し、修了後も受講者同士のつながりを継続する交流を行っている	
3		同世代の職場仲間とカラオケや飲みに行き、交流している	
5		鳥の産産育成に貢献するため、鳥の特産品を子ども達へのお土産にすることを民泊仲間と相談している	
6		社会福祉士としての仕事は、だれもやりそいもない案件を率先して引き受け、信用や人的なつながりを作るように努めている	
6		名刺交換だけでなく一回一緒に仕事をすること、人脈が広がっていくことを感じているので、自分の存在をわかってもらうことを期待して、地域活動にも参加するようにしている	
6		会社に所属していた頃は、会社名という後ろ盾で信頼関係ができていたが、退職後は自分のネットワークの力が試されることを楽しむようにしている	
4		就労シニア及び就労セミナーを受講したシニアが中心となって、雇用の受け皿となる事業所を新たに組織し、就労の場を提供している	
4		高齢者は就労セミナーを受講し、受講者同士の新たな住民同士のつながり（コミュニティ）を作り取り組んできた	
4		介護施設の食事補助や園芸業務、カフェの接客などワークシェアリングで柔軟に活動している	
4		研究プロジェクトで行われた時間的な就労についても、高齢者は、維持するために、主体的な活動を望み取り組んだ	
5		子ども達に喜んでもらいたいのので、好みを取り入れられるよう、食事のメニューは子ども達と相談する	
5		島外から民泊にきた子供達に、島の良さであり、リクエストもある釣りにつれていくようにしている	
5		民泊の子供達と一緒に釣りを楽しみ、連れても運んでも、釣りを通じて自然との楽しみ方を伝えていく	
4		高齢者による都市型の就労は、農家の体験農業から農業スキルを習熟するところから始めた	
4		高齢者の農業スキルの習得にもばらつきがあるので、農業塾に参加している	
4		家のすぐ近くで農業（緑）に触れ合いながら就労できるミニ野菜工場は、企業の支援や職者の指導を仰ぎながら、試運転している	
5		民泊の子ども達に干拓で変化した湿原を見学し、自然の美しさを取り戻す役割があるという自然と共生する大切さを伝えていく	
		仲間との横つながりをつくる交流をしている	楽しみと活動を分かち合う
		住民同士のつながりから就労の場を提供するための組織をつくりワークシェアリングで柔軟に活動している	
		関わりを楽しむ	
		自然に親しみ農業スキルの習得に試みる	自然に親しむ
		自然との共生を育てる	共生

<p>3 投げやりな気持ちではなく、私は何十年も生きてきた経験や知恵があるから、自分で職場環境に合わせていくし、合わせていくしかないと思う</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>
<p>3 前職で経験のある仕事に就き、誰よりもきちんと能率よく会社の仕事をしているという自負を取り組んでいる</p>	<p>過去の仕事の経験を活かせる仕事（人に関わる仕事）を見つけて、自分の就労内容をコーディネートしている</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>
<p>3 過去の仕事の経験を活かせる仕事（人に関わる仕事）を見つけて、自分の就労内容をコーディネートしている</p>	<p>子ども達が喜ぶ潮干狩りで楽しめるようにしたいので、漁師の経験を活かして潮干狩りだけでなく、外出の判断している</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>
<p>5 子ども達が喜ぶ潮干狩りで楽しめるようにしたいので、漁師の経験を活かして潮干狩りだけでなく、外出の判断している</p>	<p>タクシー運転手をやりながら、自分の経験や体験を客に教えたり、元々の営業マン精神で客を喜ばせている</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>
<p>3 井戸水で生活に困っていた頃に国に水道事業の要請をした過去の体験を語り、生活の経験を活かしている</p>	<p>海外生活経験を活かして、「英対話」や「英語あそび」のプログラムでの進学塾の講師を担っている</p>	<p>これまで培ってきた職業経験を活かすことのできる自分を自負し、職場環境に合わせて就労内容をコーディネートしている</p>
<p>4 就労シニアは、「まちの先生」の愛称のもと、読み聞かせ、折り紙、お手玉、巨人一音など伝承遊びの実践で活躍している</p>	<p>サトウキビを食べたことのない子ども達に、その食べ方を説明し体験させたり、鳥の魚の美味しさを味わわせているなど、暮らしの経験を伝えていく</p>	<p>これまで培ってきた暮らしの経験を語り、再現し伝えたい</p>
<p>5 サトウキビを食べたことのない子ども達に、その食べ方を説明し体験させたり、鳥の魚の美味しさを味わわせているなど、暮らしの経験を伝えていく</p>	<p>就労シニアとは、保育・子育て支援として、早朝7時半からの園児受け入れや保育補助、園児の午睡の準備と導入及び見守り補助、夕方5時までの保育補助及び降園時の給御さんへの引渡など短時間の業務カバリーを行っている</p>	<p>これまで培ってきた園児受け入れや保育補助、園児の午睡の準備と導入及び見守り補助、夕方5時までの保育補助及び降園時の給御さんへの引渡など短時間の業務カバリーを行っている</p>
<p>4 就労シニアとは、保育・子育て支援として、早朝7時半からの園児受け入れや保育補助、園児の午睡の準備と導入及び見守り補助、夕方5時までの保育補助及び降園時の給御さんへの引渡など短時間の業務カバリーを行っている</p>	<p>好き嫌いのある子どもにも食べさせることの必要性を実感できるよう空腹感をあじあわせ体験をさせ、子育て経験を活かしている</p>	<p>これまで培ってきた子育て支援として、早朝7時半からの園児受け入れや保育補助、園児の午睡の準備と導入及び見守り補助、夕方5時までの保育補助及び降園時の給御さんへの引渡など短時間の業務カバリーを行っている</p>
<p>5 好き嫌いのある子どもにも食べさせることの必要性を実感できるよう空腹感をあじあわせ体験をさせ、子育て経験を活かしている</p>	<p>朝食抜きの子どもが潮干狩りで歩けなくなった時、朝ご飯を食べる必要性を伝えるなど、食の大切さを伝えている</p>	<p>これまで培ってきた朝ご飯を食べる必要性を伝えるなど、食の大切さを伝えている</p>
<p>5 朝食抜きの子どもが潮干狩りで歩けなくなった時、朝ご飯を食べる必要性を伝えるなど、食の大切さを伝えている</p>	<p>民泊の子ども達を連れ、島の案内をしながら、子ども達の将来に役立つ話をしていく</p>	<p>これまで培ってきた若し人たちの将来に役立つ話をする</p>
<p>3 介護施設の入所者に事故がなく、喜んでもらえるように努めている</p>	<p>元氣な高齢者が親世代の高齢者を支える観点から、居室の掃除、洗濯、調整から通院をはじめとした外出の介助や買い物代行の業務を行っている</p>	<p>これまで培ってきた元氣な高齢者が親世代の高齢者を支える観点から、居室の掃除、洗濯、調整から通院をはじめとした外出の介助や買い物代行の業務を行っている</p>
<p>4 元氣な高齢者が親世代の高齢者を支える観点から、居室の掃除、洗濯、調整から通院をはじめとした外出の介助や買い物代行の業務を行っている</p>	<p>3 他の同僚の不出来、能率の悪さが気になっても注意せず、私は社員じゃないからと自分に言い聞かせている</p>	<p>これまで培ってきた同僚の不出来、能率の悪さが気になっても注意せず、私は社員じゃないからと自分に言い聞かせている</p>
<p>3 他の同僚の不出来、能率の悪さが気になっても注意せず、私は社員じゃないからと自分に言い聞かせている</p>	<p>3 自分より若い若しに指図されたり、横暴な言葉を使われるのは嫌であるが、一つのパートだと割りきるようになっている</p>	<p>これまで培ってきた自分より若い若しに指図されたり、横暴な言葉を使われるのは嫌であるが、一つのパートだと割りきるようになっている</p>
<p>3 自分より若い若しに指図されたり、横暴な言葉を使われるのは嫌であるが、一つのパートだと割りきるようになっている</p>	<p>3 介護施設の利用者への接し方が常識的でないのが気になるが、年齢の高い私たちが少数なので、注意や怒りたりできず、自分を抑えるしかない</p>	<p>これまで培ってきた介護施設の利用者への接し方が常識的でないのが気になるが、年齢の高い私たちが少数なので、注意や怒りたりできず、自分を抑えるしかない</p>
<p>3 介護施設の利用者への接し方が常識的でないのが気になるが、年齢の高い私たちが少数なので、注意や怒りたりできず、自分を抑えるしかない</p>	<p>3 仕事に対する責任もない分、要望を言う権利もないと割りきって勤めている</p>	<p>これまで培ってきた仕事に対する責任もない分、要望を言う権利もないと割りきって勤めている</p>
<p>3 仕事に対する責任もない分、要望を言う権利もないと割りきって勤めている</p>	<p>3 正職員との待遇の格差を感じ不満があるが、福祉施設は人間関係がうるさいので、愚痴も言えない</p>	<p>これまで培ってきた正職員との待遇の格差を感じ不満があるが、福祉施設は人間関係がうるさいので、愚痴も言えない</p>
<p>3 正職員との待遇の格差を感じ不満があるが、福祉施設は人間関係がうるさいので、愚痴も言えない</p>	<p>3 仲間は欲しいと思うが、人間関係の調整・構築など煩わしくない、希薄な関わりをしている</p>	<p>これまで培ってきた仲間は欲しいと思うが、人間関係の調整・構築など煩わしくない、希薄な関わりをしている</p>
<p>3 仲間は欲しいと思うが、人間関係の調整・構築など煩わしくない、希薄な関わりをしている</p>	<p>3 これまでは機械が相手の仕事をしていたが、今は孫みたいにな子どもや若い人に頭を下げなきゃならぬ人間関係に気を遣うので、ストレスをためないように辞めることを考えている</p>	<p>これまで培ってきた人間関係が煩わしいのでストレスをためない程度に希薄に関わる</p>
<p>3 これまでは機械が相手の仕事をしていたが、今は孫みたいにな子どもや若い人に頭を下げなきゃならぬ人間関係に気を遣うので、ストレスをためないように辞めることを考えている</p>	<p>3 介護施設の利用者への接し方がどうしても気にならなくても置いて誰かに伝えてもらっている</p>	<p>これまで培ってきた介護施設の利用者への接し方がどうしても気にならなくても置いて誰かに伝えてもらっている</p>
<p>3 介護施設の利用者への接し方がどうしても気にならなくても置いて誰かに伝えてもらっている</p>	<p>5 運れて帰ってきた子ども達にお腹を空かせて待っている人の気持ちを伝えるなど、心地よい関係性づくりに配慮している</p>	<p>これまで培ってきた運れて帰ってきた子ども達にお腹を空かせて待っている人の気持ちを伝えるなど、心地よい関係性づくりに配慮している</p>
<p>5 運れて帰ってきた子ども達にお腹を空かせて待っている人の気持ちを伝えるなど、心地よい関係性づくりに配慮している</p>	<p>5 戦争や歴史の語に興味を示さない子ども達を、“戦争の語はもう少し大人にならないと興味がないかもしれないと思う”、“年齢が若いから歴史には興味がないかと思う”など若い世代と話題が合わなくても受け入れる</p>	<p>これまで培ってきた顧客の気持ちを察しながら関わり心地よい関係性づくりに努める</p>
<p>5 戦争や歴史の語に興味を示さない子ども達を、“戦争の語はもう少し大人にならないと興味がないかもしれないと思う”、“年齢が若いから歴史には興味がないかと思う”など若い世代と話題が合わなくても受け入れる</p>	<p>5 若者の最近のトレンドのルールはわからないが、民泊の子供達が仲間になってくれるので断らずに子ども達にもルールを教えるもらって参加している</p>	<p>これまで培ってきた安全管理やトラブル回避のリスク管理を行う</p>
<p>5 若者の最近のトレンドのルールはわからないが、民泊の子供達が仲間になってくれるので断らずに子ども達にもルールを教えるもらって参加している</p>	<p>3 タクシー運転手は、違反と事故が怖く、酔っ払いややぎに絡まれないよう、安全の確保に努めている</p>	<p>これまで培ってきた安全管理やトラブル回避のリスク管理を行う</p>
<p>3 タクシー運転手は、違反と事故が怖く、酔っ払いややぎに絡まれないよう、安全の確保に努めている</p>	<p>5 子ども達の安全管理のため、問題を起こしそうな子どもも早めに見つけるよう観察している</p>	<p>これまで培ってきた安全管理やトラブル回避のリスク管理を行う</p>
<p>5 子ども達の安全管理のため、問題を起こしそうな子どもも早めに見つけるよう観察している</p>	<p>5 民泊の子ども達への土産は特産品のモズクとし、島の産業育成に貢献している</p>	<p>これまで培ってきた観光産業に貢献できるよう、地域の良さを顧客（民泊する子ども達）にPRしている</p>
<p>5 民泊の子ども達への土産は特産品のモズクとし、島の産業育成に貢献している</p>	<p>5 民泊の子ども達が島の観光大使になれるよう、何でも話して聞かせ、島の産業育成に貢献している</p>	<p>これまで培ってきた観光産業に貢献できるよう、地域の良さを顧客（民泊する子ども達）にPRしている</p>
<p>5 民泊の子ども達が島の観光大使になれるよう、何でも話して聞かせ、島の産業育成に貢献している</p>	<p>5 島の観光客が増えることを期待して、子ども達に接している</p>	<p>これまで培ってきた島の観光客が増えることを期待して、子ども達に接している</p>
<p>5 島の観光客が増えることを期待して、子ども達に接している</p>		<p>成地に域の真の産業を育てる</p>

### 3) 高齢者の就労における成果

高齢者の就労における成果は、【生計の維持】、【健康づくり】、【生きがいつくり】、【社会参加・社会貢献】、【つながりの修復・強化】、【老いの適応】、の6カテゴリと14サブカテゴリがあがった(表6)。以下、カテゴリの例を説明する。

(1) 【つながりの修復・強化】:〈老夫婦で修学旅行生の民泊を始めたが、その対応が難しい時には、島外の子も達に応援を依頼するので、島外の子も達の帰島頻度が増えていた〉(ID5)の《家族とのつながりの強化》の

成果があった。

(2) 【老いの価値の実感】:〈社会福祉士として働くことは、ある程度いろんな人生経験も必要なので(若い時に比べて)高年齢であることの価値を感じられる〉(ID6)の《豊富な人生経験の価値の実感》の成果があった。

このように、高齢者の就労における成果は、【生計の維持】だけでなく、【健康づくり】、【生きがいつくり】、【社会参加・社会貢献】などの介護予防活動にも繋がっていた。加えて、【つながりの修復・強化】、【老いの価値の実感】の高齢者の対象特性によるものがあった。

表6 高齢者の就労における成果

ID	コード	サブカテゴリ	カテゴリ
3	遊ぶ資金を稼ぎ、遊びのゴルフと外での一杯(酒)を続けている	趣味の資金づくり	生計の維持
3	社会保険が完備している	生活保障	
5	民泊の仕事は、高齢者の健康保持に役立つ	歩く機会が増える	健康づくり
3	通勤で歩く機会が増え、健康のために活用できている		
3	健康のため通勤を徒歩にすることで、1時間は平気に歩く体力がついた		
3	生活リズムが出来た		
3	就労してからは、時間がつぶせ、鬱にならなくなった	メンタルヘルスへの効用	生きがいつくり
3	お酒を飲まなくても済むようになった		
3	惚けないようにしたいと健康づくりへの意欲が出来てきた	頼りにされる満足感とやりがい	
3	介護施設の入所者が喜ぶことが私のやりがいになっている		
3	介護施設入所者が自分を頼りにしてくれることがやりがいになっている		
3	「私がこの仕事を頼まれた、選ばれた」という満足感がある	仲間と繋がる楽しさ	社会参加・社会貢献・社
6	人に必要とされていることが嬉しい		
3	同世代の職場仲間とカラオケや飲みに行くのが楽しい	経験が活かせるうれしさ	
6	社会福祉士として働くことは、過去の人生経験が全部生きることから、こんなに嬉しいことはない		
3	タクシー運転手は、好きなきときに客と話しができ、営業マンの経験が活かせる、客に喜ばれることに満足している	会社に所属し役割を果たす満足	
3	誰よりもきちんと能率よく会社の仕事をしていることで、自分の存在意味や会社の歯車として貢献している満足感がある		
3	会社から「長く居てほしい」と期待され、会社に貢献している	新たなつながりの拡がり	つながりの修復・強化
5	何もない島での民泊は現金収入になるので、継続したいと、民泊は島の産業を育成していた		
3	介護施設の入所者とのコミュニケーションが楽しい	家族関係の修復	
3	定年退職後は、朝から晩まで妻とはいられないと思ったが、私は介護施設で働き、妻は妻で好きに習い事をやっていて、丁度いい調和がとれている		
3	妻の価値観を理解しようとする余裕ができた	家族とのつながりの強化	
3	外に稼ぎに出かけ、生活費の補足をすることで、妻が精神的なストレスを感じなくなってきた		
5	老夫婦で修学旅行生の民泊を始めたが、その対応が難しい時には、島外の子も達に応援を依頼するので、島外の子も達の帰島頻度が増えていた	豊富な人生経験の価値の実感	老いの価値の実感
3	補助的の生活費が得られ、孫や娘に小遣いがあげられる		

## IV. 考察

### 1. 高齢者の就労の特徴

#### 1) 高齢者の就労におけるニーズからみた特徴

高齢者の就労におけるニーズは、高齢者本人のためだけでなく、仲間や会社や地域など的高齢者本人以外の他者のためのニーズも含んでいた。

三戸(1987)は、「はたらく」ことの語源は「傍(はた)を楽にする」(他者を楽にする)とし、家を拠点にし、家族と共に働いてきた日本人の特徴を述べた。このように、高齢者の就労におけるニーズにおいても、高齢者本人のためだけでなく、仲間や会社や地域など的高齢者本人以外の他者のためが含まれており、自助(本人・家族の助け合い)だけでなく、就労を通じて共生社会で互助(関係者間の助け合い)に繋げる必要があることが示唆された。

#### 2) 高齢者の就労における経験からみた特徴

高齢者の就労における経験は、高齢者本人への影響と他者への影響があった。

辻ら(2011)は、生きがい就労のコンセプトとして『働きたいときに無理なく楽しく働く』、『高齢者の就労で地域の課題解決の貢献につなげる』を提示している。本研究において、『働きたいときに無理なく楽しく働く』は【介護予防で老いに適応しながら無理なく働く】、【楽しみと活動を分かち合う】、【自然に親しみ共生する】、『高齢者の就労で地域の課題解決の貢献につなげる』は【これまで培ってきた経験を活かす】、【老いの強みを活かす】、【異なる価値を受け入れ適応する】、【地域の産業育成に貢献する】を包含していると考えられた。

#### 3) 高齢者の就労における成果からみた特徴

高齢者の就労における成果は、【生計の維持】だけでなく、【健康づくり】、【生きがいづくり】、【社会参加・社会貢献】などの介護予防活動にも繋がっていた。加えて、【つながりの修復・強化】、【老いの価値の実感】の高齢者の対象特性によるカテゴリーが抽出された。

生計の維持については、高齢勤労者世帯の家計が黒字となっているのに対し、高齢無職世帯の家計は赤字となり、不足分は貯蓄などを取り崩して賄っていることが報告されている(総務省統計局, 2017)。また、介護予防活動については、就労は基本的日常生活動作能力(BADL)の維持を及ぼすこと、抑うつ度は有意に低下すること、共同体意識は有意に上昇する等、就労が介護予防につながることを報告している。このように、高齢者の就労における成果として、生計の維持、介護予防活動があることは先行研究を支持する結果であった。

高齢者の対象特性として、これまで生きてきた歴史の中で、様々なつながりがあると同時に、定年退職や子育てからの解放により社会システムからの離脱を余儀なくされ、人生の最終段階にある高齢者にとって、つながりの修復・強化のもつ意味は大きいと考える。大湾ら(2003)

は、離島における施設入所高齢者の生きがいづくりについてアクションリサーチにより、本人の生きがいづくりだけでなく、家族関係の深まりや施設職員との関わりにも影響するという波及効果を報告している。また、長嶺(2012)は、要介護高齢者の社会参加に焦点をあて、人と人とのつながりを目的とした主観的な外出ニーズの充足はリハビリ意欲が高まり生活機能の保持につながるとしている。今回の高齢者の就労においても、つながりの修復・強化が可能であることが示唆された。

また、ニューマンは、老年期の発達課題として、内省によって自分の過去の人生を受け入れ、自尊心を高め、「統合」を獲得することを述べている。老いの価値の実感、豊富な人生経験を持つ高齢者の対象特性を活かした就労の成果といえる。

### 2. 看護職者が介護予防を就労につなぐ必要性

介護予防は、高齢者の就労の波及効果として取り沙汰されるようになって久しい。高齢者の就労を支援するためのシルバー人材センターは、健康であることを入会条件にしており、自立高齢者を対象にしていることから、虚弱高齢者の就労の実態やその効果は明らかにされていない。

就労は、社会的弱者を含むすべての者が、生産的活動に従事することにより、その対償として他者との相互作用が生まれることであり、働くことを通じて社会の構成員として参加することの価値を支持している。また、ノーマライゼーションの理念や、国際連合が1981年の国際障害者年にテーマとした「完全参加と平等」の実現に立ち返れば、虚弱高齢者を含めたすべての者が就労できることが求められている。さらに、伊牟田ら(2015)は、要介護高齢者であっても社会貢献できる存在であり、要介護高齢者だからこそできる社会貢献があったことを明らかにしている。このことは、虚弱高齢者が就労することによる新たな価値が見いだされることが推察される。

虚弱高齢者が就労するためには、何が必要であろうか。高齢者の社会参加について他者との関与の高さとその目的からレベル分類を試みた小林(2015)は、初期段階を「他者とつながる準備段階として、一人で行っている日常の活動」とし、最終段階に「仕事」を位置づけている。生活困窮者の就労支援について述べた山崎(2017)は、就労するための職業能力の前に、朝起きて出勤するという生活習慣を守ることや職場の他の人々との間でコミュニケーションを持つことなど、日常生活や社会参加のベースを作っていく就労準備支援の必要性を示している。このように、虚弱高齢者においても、就労につながるための初期段階が必要であり、その初期段階として介護予防を位置づけることで就労につながる可能性がある。したがって、虚弱高齢者であっても、就労を通じて社会の構成員として参加するために、介護予防を就労につなぐ手段として位置づけ、看護職者が支援する必要性がある。

## V. 結論

1. 高齢者の就労におけるニーズは、高齢者本人のためだけでなく、仲間や会社や地域など的高齢者本人以外の他者のためのニーズも含まれていた。
2. 高齢者の就労における経験は、高齢者本人への影響と他者への影響があった。
3. 高齢者の就労における成果は、生計の維持だけでなく、介護予防活動にも繋がっていた。加えて、つながりの修復・強化、老いの価値の実感の高齢者の対象特性によるものがあった。

## 引用文献

- Arendt H. (1958/1994). 志水速雄(訳). 人間の条件. 筑摩書房.
- 福島さやか. (2006). 高齢者の就労ニーズ分析 — 高齢期における就労形態の探索 (女性のキャリア、高齢者のキャリア). Works review, 1, 8-21.
- 福島さやか. (2007). 高齢者の就労に対する意欲分析 (特集 仕事の中の幸福), 日本労働研究雑誌 49(1), 19-31.
- Harari YN. (2011/2016). 柴田裕之. サピエンス全史 : 文明の構造と人類の幸福. 河出書房新社.
- 伊牟田ゆかり, 大湾明美, 佐久川政吉他. (2015). 要介護高齢者の社会貢献, 老年看護学, 19(2), 66-74.
- 菊野一雄. (2003). 現代社会と労働. 慶應義塾大学出版会.
- 小林江里香. (2015). 高齢者の社会関係・社会活動, 老年精神医学雑誌, 26(11), 1281-90.
- 高齢者介護研究会. (2003). 2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～.
- 厚生労働省. (2017). 平成29年版厚生労働白書 — 社会保障と経済成長 —.
- 厚生労働統計協会. (2018). 国民の福祉と介護の動向 2018/2019. 厚生 の 指 標 = Journal of health and welfare statistics, 65(10), 1-327.
- 三戸公. (1987). 恥を捨てた日本人 : 民主主義とく家 の 論 理. 未来社.
- 長嶺由利子. (2012). 要介護高齢者の外出ニーズを充足する支援の検討—一人と人のつながりを目的とした主観的な外出ニーズに焦点をあてて—. 沖縄県立看護大大学院修士論文.
- 日本社会保障法学会. (2001). 社会保障法の関連領域 : 拡大と発展. 法律文化社.
- 大川弥生. (2004). 介護保険サービスとリハビリテーション-ICF に立った自立支援の理念と技法-. 中央法規出版.
- 大河内一男. (1971). 日常茶飯. 読売新聞社.
- 奥貫妃文. (2016). 労働法から逸脱した「就労」に関

する—考察 : 生活困窮者自立支援法施行後の状況と課題. アジア太平洋レビュー (13), 18-29.

- 大曾根寛, 奥貫妃文. (2006). 障害者自立支援法における「労働」と権利擁護の在り方 : 「福祉」と「労働」を架橋する法理論の形成に向けて. 放送大学研究年報, 24, 1-16.
- 大浦明美. (2015). 独立型社会福祉士における高齢期の就労継続要因, 千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書, 288, 43-55.
- 大湾明美, 佐久川政吉, 大川嶺子他. (2003). 離島における施設入所高齢者の生きがいづくりに関する研究 「ふるさと訪問」事業化への取り組みのプロセスと事業評価・課題. 沖縄県立看護大学紀要 (4), 37-47.
- Rowe JW, &Kahn,R.L. (1998). Successful aging : The MacArthur Foundation study, A Dell Trade Paperback.
- 総務省統計局. (2017). 家計調査報告 (家計収支編) —2017年平均速報結果の概要—. www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/nen/index.html (2019年1月24日検索).
- 橘木俊詔. (2009). 第1章 働くということ—偉人はどう考えたか—, 働くことの意味. (pp3-29). ミネルヴァ書房.
- 辻哲夫. (2011). セカンドライフの就労モデル開発研究 平成22年度研究開発実施報告書
- 辻哲夫. (2013). セカンドライフの就労モデル開発研究 研究開発実施終了報告書
- 上田敏. (1983). リハビリテーションを考える—障害者の全人間的復権—, 45-50.
- 上田敏. (2005). ICF (国際生活機能分類) の理解と活用—人が「生きること」「生きることの困難 (障害)」をどうとらえるか—.
- 後山恵理子. (2007). 高齢者の就労目的と満足度 : 予備的事例調査から, 東海学院大学紀要, 1, 23-30.
- 山口初代, 大湾明美, 佐久川政吉他. (2014). 男性高齢者の “生きがい就労” の実態とニーズ : A島の当事者の語りから, 沖縄県立看護大学紀要, 15, 43-51.
- 山口初代, 大湾明美, 田場由紀他. (2018). 看護職者による介護予防に関する国内文献の検討. 沖縄県立看護大学紀要, 19, 31-38.
- 山川肇. (1978). 労働観試論. 農山漁村文化協会.
- 山村りつ. (2011). MINERVA 社会福祉叢書⑧ 精神障害者のための効果的就労支援モデルと制度—モデルに基づく制度のあり方—, 23-29, ミネルヴァ書房.
- 山崎史郎. (2017). 人口減少と社会保障, 129-132, 中公新書.